

農業者戸別所得補償法案と担い手経営安定新法の比較

	農業者戸別所得補償法案	担い手経営安定新法
目的	<ul style="list-style-type: none"> 食料の国内生産の確保 農業者の経営の安定 食料自給率の向上 地域社会の維持、活性化等の農業の多面的機能の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 担い手の農業経営の安定 食料の安定供給の確保
対象農産物	<ul style="list-style-type: none"> <u>標準的な販売価格が標準的な生産費を構造的に下回るものを対象とします。</u> <p>〔主要農産物：米、麦、大豆その他政令で定めるもの 〔政令で定める作物として、雑穀、菜種、飼料作物等を想定〕〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <u>諸外国との生産条件の格差を是正</u> <p>〔麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょ、(米穀)〕</p>
対象農家	<ul style="list-style-type: none"> 生産数量の目標に従って主要農産物を生産する全ての販売農業者 <p>〔<u>地域における農業者の共生、集落機能の維持に着目した措置</u>〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面積要件等で対象農家を限定 <ul style="list-style-type: none"> 認定農業者（個人・農業生産法人） <ul style="list-style-type: none"> 都府県 4ha 以上 北海道 10ha 以上 集落営農組織 20ha 以上 <p>〔<u>特定の経営体の農業経営の安定のための措置</u>〕</p>
生産数量の目標	<ul style="list-style-type: none"> <u>国、都道府県及び市町村の連携により、主要農産物の種類ごとに設定</u> <p>〔10年後に食料自給率50%、将来的に60%を達成するよう目標を設定〕</p>	<p>〔食料自給率向上との具体的な関連性は見えない〕</p>
支援の内容	<p>〔特徴〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>個々の農産物の生産に着目した支援</u> <p>〔内容〕 (農業者戸別所得補償金の支払い)</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売農業者の所得を補償するための交付金 <ul style="list-style-type: none"> ○標準的な販売価格と標準的な生産費との差額を基本として補てん ○生産数量の目標に従った生産が条件 ○主要農産物の種類ごとに、毎年の主要農産物の生産面積(販売生産量換算)に応じた支払い ○次の要素を加味する <ul style="list-style-type: none"> ・品質 ・経営規模の拡大 ・環境の保全に資する度合 ・米に代わる農産物の生産 現行の中山間地域等直接支払制度を恒久化 	<p>〔特徴〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>実際の作付農産物の面積、種類に関係なく、品目横断的に過去の生産実績を基本として支援</u> <p>〔内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の生産実績に基づく支払い <ul style="list-style-type: none"> ○毎年、一定額の支払い ○他の農産物生産に転換しても支払う 毎年の生産量・品質に基づく支払い <ul style="list-style-type: none"> ○対象農産物の種類ごとに、品質別の生産量に応じた支払い 収入減少影響緩和交付金 <ul style="list-style-type: none"> ○対象農産物(米を含む)の販売収入の下落の一部を補てん
経費	<ul style="list-style-type: none"> 約1兆円(平年度ベース) 	<ul style="list-style-type: none"> 1,700億円(平成19年産ベース)